

環境エネルギー科学技術委員会における第 1 2 期の活動について

令和 5 年 8 月 2 5 日
研究計画・評価分科会
環境エネルギー科学技術委員会

○第 6 期科学技術・イノベーション基本計画に対応する取組について

(1) 各部会・委員会に関する研究及び開発等に関するもの

今期の委員会においては、2050 年カーボンニュートラル実現目標や各種戦略・計画等を踏まえた、環境エネルギー分野における研究開発の方向性の議論を行うとともに、事業の中間評価等について審議を行う。

革新的 GX 技術開発小委員会において、「革新的 GX 技術創出事業 (GteX)」に関する基本方針及び研究開発方針等の策定を通じ今後 10 年間で我が国が推進すべき研究開発について検討を行ったが、今後、重点的に研究開発に取り組むべき GX 技術について調査・検討を継続する。調査・検討状況については、適宜委員会とも情報を共有する。

(2) 自然科学の「知」と人文・社会科学の「知」の融合である「総合知」の創出・活用に向けたもの

2050 年カーボンニュートラルの達成に向けた、国や地域の変革のための知見の創出・普及の観点から、「大学の力を結集した、地域の脱炭素化加速のための基盤研究開発」において、人文・社会科学から自然科学までの幅広い知見を活用し、大学等が地域の脱炭素化の取組を支援するために活用できるツール等に係る分野横断的な研究開発を推進する取組を進めている。また、地域における大学等の「知の拠点」としての機能を強化するため、「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」を立ち上げ、自治体や企業等との連携による先進的な取組や研究成果の横展開・議論を行い、カーボンニュートラルに向けた知見・技術の社会実装等を推進している。本事業が効果的に推進されているか環境エネルギー科学技術委員会で確認する。

加えて、GteX の基本方針において、技術開発を推進すると同時に LCA（ライフサイクルアセスメント）や資源循環可能性といった観点から技術評価やシナリオ研究を行うこととされている。このため、人文・社会科学など自然科学以外の観点も踏まえつつ事業が運営されているか革新的 GX 技術開発小委員会において確認するとともに、GteX の進捗については、委員会と情報を共有する。

○今後、分科会で議論することを期待する論点について

第 11 期で議論した 2050 年カーボンニュートラルの達成に向けた推進方策等について、引き続き委員会で議論を継続する。